

とくしょ たび 読書の旅へでかけよう！



『こわいがいっぱい おばけのはなし よふかししょうかい』

つじたかし 辻貴司／さく
 いとうみつる／え
 いわさきしよてん 岩崎書店

913



『はじまりはわざとじゃない！』

かさいまり／さく
 きたむら 北村みなみ／え
 しゅつぱん くもん出版

913



『わかったさんのチョコレート』

てらむらてるお 寺村輝夫／げんあん
 ながいこ 永井郁子／さく・え
 あかね書房

913



『発車オーライ！
 山の電車「いたずら号」』

いばき彰吾／ばん
 たなかくだい 田中六大／え
 ぶんけんしゅつぱん 文研出版

913

わかったさんが迷いこんだ、ふしぎなお城。そこで、マリー姫のためにザッハトルテを作ることに……。本のさいごには作り方もっているよ！

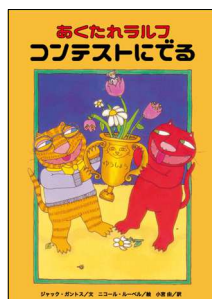
山のひいばあの家からひとりで帰ることになった、小学2年生のトオル。のった電車「いたずら号」には、妖怪がのってきてお客さんをつれていこうとする。



『こんにちは、アンリくん』

エディット・ヴァシュロン／ばん
 ヴァージニア・カール／ばん・え
 まつり 松井り子／やく
 とくましよてん 徳間書店

933



『あくたれラルフ
 コンテストにでる』

ジャック・ガントス／ばん
 ニコール・ルーベル／え
 こみやゆう 小宮由／やく
 だいにっほんとしよ 大日本図書

933

23人家族のアンリくんは、39ひき家族ねこのミシェルと、友だちになりました。ふたつの大家族が、いっしょにくらす中、つぎつぎとさわぎがおきるのです。

あくたれねこのラルフは、ねこのコンテストでゆうしようするために、とつくんをします。ライバルのパーシーはじしんまんまん。さて、けっかはどうなったかな。



『ひつじシステム』

おおくし
大串ゆうじ／さく
しょうがつかん
小学館

E

ねむれない時は目をつぶり、ひつじを数えるとねむ
くなるとママが教えてくれた。ぼくはひつじを数えてい
たら、地面がわかれて、ひつじがちくわの中へ!?



『のんびりやのコアラ』

レイチェル・ブライト／ぶん
ジム・フィールド／え
あんどう
安藤サクラ／やく
トゥーヴァージンズ

E

コアラのケビンのはのんびりやさん。まいにち同じ場所
にいるのが大好きでみんなで遊ぼうとしない。そんな
ケビンにもある時、とんでもないことが起きちゃった。



『モリスくんと
オレンジいろのドレス』

クリスティン・バルダチノ／さく
イザベル・マソファン／え
まえざわあきえ／やく
せかいぶんかしゃ
世界文化社

E

男の子がオレンジ色のドレスを着る？好きがいつぱ
いつまった服を着たっていいじゃない！まわりを気に
せず自分を大切にしておくはなし。



『やくそく
ぼくらはぜったい戦争しない』

なすまさもと
那須正幹／さく
ただみほ
武田美穂／え
ポプラ社

E

おばあちゃんは、ぼくを戦争で死んだお兄さんとま
ちがえる。おばあちゃんのように顔を見て、ぼくは思
った。もう二度と、大切な人を戦争でなくしたくない。



『つめたいこおり
どんなかたち?』

ほそじまさよ
細島雅代／しゃしん
いじちえいしん
伊地知英信／こうせい・ぶん
いわさきしよてん
岩崎書店

E

水がひえてかたまると、氷になる。氷はいろいろな
形になる。さむいきせつ、しぜんの中には、どんな氷
があるか見てみよう。おもしろい科学の本。



『たねはいのちの
おわりとはじまり』

すずきじゅん
鈴木純／ちよ
ブロンズ新社

471

いろいろなたねの成長をページいっぱいの写真で
見ることができます。たねから花がさき、新しいたね
ができる。いのちのくりかえしを伝えます。



『もっと手話ではなそう
しゅわしゅわ村の
はじめてのおつかい』

くせさなえ／さく・え
かいせいしゃ
偕成社

801

男の子が村におつかいに行った。いろいろなお店が
あり、友達にも会った。ぶじに家に帰れるかな。本を読
みながら手を動かすと、楽しく手話がおぼえられるよ。



『小学校の生活ずかん』

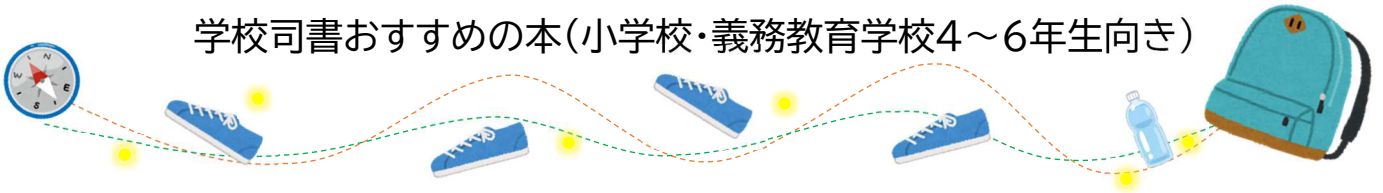
はまのゆか／え
Gakken

376

小学校はどんなところ？教室や授業、行事に給食
など、小学校生活のすべてがこの1さつに！たくさん
のイラストで学校の“楽しい！”がわかります。

読書の旅へでかけよう！

学校司書おすすめの本(小学校・義務教育学校4～6年生向き)



『ニュートン 科学の学校シリーズ
AIの学校』
松尾豊/監修
ニュートンプレス 007

AI(人工知能)は、コンピューターが人間のように物事を考えてくれる技術のこと。AIのしくみや、これからの進化の可能性について、やさしく学べる1冊。



『地理学者シリアへ行く』
小口高/文
山本美希/絵
アリス館 E

地理学者の仕事って何をするんだらう？ページをめくるたびにシリアでの洞窟調査や中東の人々の生活が見えてくる！



『まぼろしの動物ニホンオオカミ
小学生、なぞのはくせいの正体を追う』
たけたにちほみ/文
川田伸一郎/監修
Gakken 489

小学4年生の白菜子さんは古いはくせいを見つけた。それは世界で6体目のニホンオオカミかもしれない。証明するための調査が始まった！



『給食が教えてくれたこと
「最高の献立」を作る、ぼくは学校栄養士』
松丸奨/著
くもん出版 374

野菜も魚もお肉もきらい、給食なんて大きい。そんな男の子が学校栄養士になって大活躍！ついに学校給食甲子園で優勝旗を手にするまでに。



『ホタルの光をつなぐもの』
福岡伸一/文
五十嵐大介/絵
福音館書店 486

ホタルの幼虫を捕まえた。ホタルを育てるには何が必要なのだろう。生物学者が自然の中にあるつながりをやさしく語る。



『海 ビーグル号で海たんけん』
高久至/写真・文
アリス館 E

古い車を改造したビーグル号で海岸線走り、日本中の海にもぐって探検したよ。いろいろな姿を知ってほしいな。豊かで美しい海を大切にしていこう。



『ずかん石積み』
真田純子/監修
ニシエ芸石積み研究会/著
技術評論社 511

八王子城跡の階段や、色々なお城のかべを見て、どうやって石を積みあげているか不思議に思ったことはあるかな？この本を読んで石積み博士になろう！



『1945年8月6日
あさ8時15分、わたしは』
原爆を体験した子どもたち/言葉
いわさきちひろ/絵
童心社 916

原爆が落ちた朝、子どもたちは何を見て、家族はどうなったのか。わかりやすい言葉で語られる戦争。



短編小学校neo

『うちのクラスに天才子役』
吉野万理子／作 satsuki／絵
静山社 913

6年A組に天才子役と名高い転校生がやって来た。最初は遠くから見ていたクラスメートだけど、彼を知るにつれ距離が縮まっていく。



『チャレンジ！ロボットコンテスト』
あさだりん／作 難川まつり／絵
金の星社 913

快は没収されたゲーム機を取り返すために、ロボットコンテストへの出場を決める。お題はサッカー。攻撃の操縦ロボと、守備のプログラミングロボ作りに挑戦だ。



『カタミの森』
小森香折／作 出久根育／絵
小学館 913

龍の伝説がある平和な森にすむ子ギツネのロビン。ある日、都にすむイクサグマがせめてきた。ロビンと森の動物たちは、圧倒的強さの敵に立ち向かう。



『読書感想文が終わらない!』
額賀滯／作 satsuki／絵
ポプラ社 913

「読書感想文って何を書いたらよいかかわからない」という人にピッタリの本。なぜか小学校の図書室に現れる中学生のフミちゃん、迷える小学生を救う。



『小泉八雲と怪奇バスターズ』
小前亮／作 もなか／絵
理論社 913

動画配信者を目指す勇輝と世志斗は怪談動画の撮影に挑戦中。捨てられないタンス、雪女など、町で起こる不思議な出来事を「ソレガシさん」に相談すると……。



『ゴロゴロヤマネコ不動産』
なんだかあやしいおすすめ物件』
藤重ヒカル／作 樋口モエ／画
福音館書店 913

ヤマネコ不動産が紹介する物件はどれも家賃が安い！ただし、お店にやってくるあやしいお客さんの不思議な注文にこたえるのが条件だ。



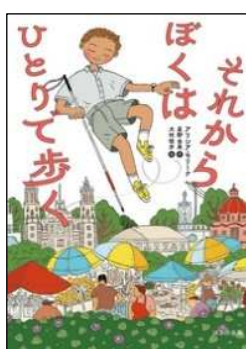
『しじんのゆうびん屋さん』
齊藤倫／作 牡丹靖佳／画
偕成社 913

小さな町のゆうびん屋さんは特別な手紙を届けてくれる。それは元気をくれたり、お守りになったりするそうだ。あなたの心に響く手紙もあるかもしれない。



『ドッグタウン物語』
保護犬チャンスとロボット犬』
キャサリン・アップルゲイト & ジェニファ・チョールデンコウ／作
尾高薫／訳 セツサチアキ／絵
偕成社 933

保護施設の犬、チャンスとメタルヘッドは、飼い主に再会する旅に出た。はたして会えるのか？



『それからぼくはひとりで歩く』
アリシア・モリーナ／作
星野由美／訳 犬吠徒歩／絵
ほるぷ出版 963

目の見えないハイメの毎日は冒険と幸せに満ちている。好きなサッカーチームもあるし、友達のおしゃべりも楽しい。そして今日はミゲルと秘密をつくった。



『いまにヘレンがくる』
メアリー・ダウニング・ハーン／作
もりうちすみこ／訳
偕成社 933

母親の再婚で新しい家に引っ越してきたモリーと弟のマイケル。かつて教会だったその家には、少女ヘレンの影がつきまとっていた。

学校司書おすすめの本

読書の旅へでかけよう!



『楽しく学べる歴史図鑑 土偶』
山田康弘/著
スタジオ タック クリエイトィブ
210

土偶は何のためにどうやって作られたのか。はにわと、どう違うのか。土偶の種類や歴史だけでなく、縄文時代がどんな時代だったのかわかる本。縄文時代は意外と長い。



『絵で旅する 国境』
クドル/文 ヘラン/絵
なかやまよしゆき/訳
文研出版 329

日本に住んでいるとあまり意識しない国境。家の中やベンチ、鉄条網など様々な形がある。国とは何なのかを考えるキッカケにもなる一冊。



『はじめまして 赤い星
人が火星に住む方法』
エドゥアール・アルタリーバ 他/著
わたなべじゅんいち/監訳
いとうのぶこ/訳 化学同人 445

軌道や重力を計算し、太陽風や宇宙線を乗り越え、火星までの旅は約10か月。今はまだ探査機だけが到達しているけれど、人類が火星で生活する日も近い?



『絶滅体験レストラン
もしも環境問題が13の飲食店だったら』
WoW キツネザル/著
澁谷玲子/イラスト 山と溪谷社 519

すべてを焼き尽くす山火事ラーメンに、溶けだした氷河で作ったメルトバーガー。食べて体感すれば、他人事ではいられないこと間違いなし! 環境問題を新感覚で考えよう。



『こんにちは 弱いロボット』
岡田美智男/作 早川世詩男/絵
偕成社 548

間違えたり、手助けが必要だったりの「弱いロボット」たち。高性能でスマートなロボットの真逆に行く彼らだけれど、とても愛しく感じられるのは、なぜだろう?



『子ブタたちはどう生きたのか
ぶうふうう農園の7か月』
太田匡彦/著 岩崎書店 645

食用豚の大半は、効率優先の劣悪な環境で一生涯を終える。一方で、のびのび豊かな「豚生」を模索する農園も……。命を頂くという事を考えさせてくれるノンフィクション。



『これから大人になる
あなたに伝えたい10のこと
自分を愛し、困難を乗り越える力』
サヘル・ローズ/著 童心社 779

俳優サヘル・ローズが、自身の試練に満ちた子ども時代と、その後の支援活動で訪れた地での様々な出会いを綴り、私たちに生きる上でのヒントを語りかけてくれる。



『5文字で百人一首』
すとうけんたろう/著・イラスト
講談社 911

31文字の百人一首を5文字に! 読んでびっくり、確かに言いたいことは伝わってくる。こんなに省略しちゃって…と笑いながらも、和歌がぐぐっと身近に感じられる一冊。



『業平センパイの読書会
堤中納言物語』

花形みつる/作
偕成社 913

古典研究部の業平部長は部員集めに悩んでいた。古典の面白さを知ってもらうため、読書会を企画する。平安時代の恋の駆け引きやオシャレ事情に女子達のツッコミが止まらない。



『そして少女は加速する』

宮田珠己/著
幻冬舎 913

陸上部員であれば、一度は出てみたいインターハイ。短距離の試合は春から始まる。練習の苦しさ、負けた悔しさ、ケガの辛さ、プレッシャー、すべてをかかえて勝ち上がれ。



『みかんファミリー』

椰月美智子/著
講談社 913

隣のクラスの生き物オタク、野々花の家族と一緒に暮らすことになった美琴。女ばかり6人の新しい生活に、とまどいながらも絆を深めていく。タイトルの「みかんファミリー」の意味とは？



『インド象の背中に乗って』

小手鞠い/著
小学館 913

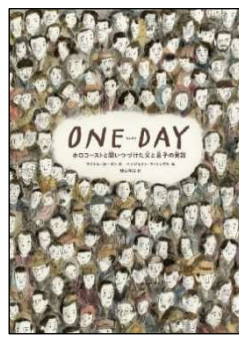
父が仕事でインドに赴任することになった。インドに興味がなかった三葉は日本に残ることにしたが、ある絵本に出会い、インドの魅力にぐいぐいと引き込まれていく。



『Garden』

8月9日の父をさがして』
森越智子/作 童心社 913

僕にはふたつの名前があった。名前の秘密は、奇跡的に原爆の惨禍から逃れた、父の秘密へとつながっていく。8月9日。あの日の父の足取りと思いをたどる物語。



『ONE DAY ホロコーストと
闘いつづけた父と息子の実話』

マイケル・ローゼン/文
ベンジャミン・フィリップス/絵
横山和江/訳 鈴木出版 235

ナチス・ドイツに占領されたパリのユダヤ人収容所で、希望を捨てない親子がいた。生き延びるためにトンネルを掘り、列車から飛び降り、力を合わせて逃げようとした。



『探検家』

キャサリン・ランデル/著
越智典子/訳 ゴブリン書房 933

飛行機が墜落してアマゾンに取り残された4人の子どもたちは、必死でジャングルを生きのびようとする。ある日、自分たちより前に人がいた痕跡を見つけた。誰か近くにいるのだろうか。



『涙の箱』

ハンガン/作 きむ ふな/訳
評論社 929

ある村にひとりの子供が住んでいた。その子は「涙つぼ」とよばれ、些細なことでも涙を流した。ある日、純粋な涙を探し求めて、見知らぬ男が訪ねてきた。



『金色の切手と
オードリーの秘密』

オンジャリ Q.ラウフ/作
久保陽子/訳 静山社 933

病気の母親とふたりの弟の面倒を見るオードリー。発作を起こした母のため、まとまったお金が必要になり、無鉄砲な行動に出る。家族を見守る周りの人々が温かい。



『エイダンをさがして』

デイヴィッド・レヴィサン/作
三辺律子/訳 小峰書店 933

6日間行方が知れず「ようふくだんす」から別世界に行っていたというエイダン。誰からも信じてもらえず、好奇の目で見られ、傷つき葛藤する。そんな兄を信じる弟の視点で描かれた、行きて帰る「その後」の物語。